

Business Report

第88期中間事業報告書

平成15年4月1日～平成15年9月30日

株 主 の 皆 様 へ

株主の皆様には、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

第88期中間期(平成15年4月1日から平成15年9月30日まで)の事業報告書を株主の皆様にお届けするにあたり、平素のご支援に対しまして厚くお礼申し上げます。

当中間期のわが国経済は、製造業の空洞化、デフレ経済、不良債権問題、為替問題などの不安定要因を抱えながらも、民間設備投資が前年比プラスに転じるなど、やや明るい兆しも見えてきました。

海外においては、欧州の景気回復は不透明感がありますものの、北米経済は回復基調に転じました。また、アジアにおきましても全般的に明るい兆しが見えてきました。

このような情勢の中で、全社を挙げて業績向上に懸命の努力を重ねてまいりました結果、受注高は国内ならびにアジア向けの自動車生産ラインのコンベヤシステムが堅調に推移し、527億57百万円(前年同期比9.1%増加)となりました。売上高はエレクトロニクス業界向け搬送・保管システムが一時的に減少するとともに、当中間期に売上予定しておりました案件が下期にずれ込むなどにより457億50百万円(前年同期比6.2%減少)となりました。

一方、利益につきましては、世界最適地生産および海外調達比率の向上による変動費削減ならびに前期から継続実施しております固定費削減(SS作戦運動)を行ってまいりました結果、前年同期に比べ大幅に収益改善が図られ、2億54百万円の営業利益を計上することができました。(前年同期14億32百万円の営業損失)

さらに、経常利益も中間期後半からの円高による為替差損の発生等もありましたが、5億1百万円(前年同期19億47百万円の経常損失)を計上することができました。

特別利益では、持ち合いの一部解消にともなう株式売却益ならびに神奈川県逗子市に保有しておりました寮・社宅用地・建物の売却益を計上しました。

一方、特別損失では、田端(東京都北区)に寮・社宅用地として保有しておりました土地を売却(全体の67% 1,470㎡)し、同等額の建物を取得(等価交換)したことにより発生した土地売却損に加え、棚卸資産の除却損、退職給付会計制度における積立不足の償却等の特別損失を計上したため、43百万円の間接純利益(前年同期25億24百万円の間接純損失)となりました。

株主の皆様におかれましては、今後とも一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

平成15年12月

代表取締役社長 竹内 克己



営業の概況

全般の成果

第88期中間期全般の成果につきましては、以下の通りでございます。

受注高	527億57百万円(前年同期比 9.1%増)
売上高	457億50百万円(前年同期比 6.2%減)
営業利益	2億54百万円(前年同期比 16億86百万円増)
経常利益	5億1百万円(前年同期比 24億48百万円増)
中間純利益	43百万円(前年同期比 25億67百万円増)

部門別の経過および成果

搬送システム部門

受注高は、北米向け自動車生産ラインのコンベヤシステムやエレクトロニクス業界向けの搬送システムが一時的に減少いたしましたものの、国内・アジア向け自動車生産ラインのコンベヤシステムは堅調に推移しました。

この結果、当部門の受注高は247億5百万円(前年同期比16.9%増)となりました。

売上高は、北米、アジア向けの自動車生産ラインのコンベヤシステムが堅調に推移し売上に寄与しましたが、エレクトロニクス業界向け搬送システムが一時的に減少しました。

この結果、当部門の売上高は187億11百万円(前年同期比10.1%減)となりました。

保管システム部門

受注高は、国内の食品・化学・薬品業界向け大型・中型自動倉庫システムが増加いたしました。一方で、エレクトロニクス業界向け保管システムならびに精密機器・印刷・事務機業界向け自動倉庫システムが一時的に減少いたしました。

この結果、当部門の受注高は180億38百万円(前年同期比8.0%増)となりました。

売上高は、化学・薬品業界向け大型・中型自動倉庫システムが増加しましたものの、運輸・倉庫業界向け物流センター・配送センターの保管・仕分けシステムが一時的に減少しました。

この結果、当部門の売上高は180億3百万円(前年同期比1.8%減)となりました。

物流機器部門

代理店・販売店による地域に密着したよりきめ細かな販売活動の展開を行い、商量の確保に懸命に努めてまいりましたが、当部門の受注高は49億22百万円(前年同期比11.3%減)、売上高は43億55百万円(前年同期比2.0%減)を計上するにとまりました。

その他の部門

主要製品の洗車機は新製品「ニュープロス」の投入等拡販を図ってまいりましたが、需要環境が厳しい状況下において、この部門全体では、受注高は50億90百万円(前年同期比2.2%増)、売上高は46億80百万円(前年同期比9.5%減)となりました。

設備投資と資金調達の状況

当中間期は、小牧・滋賀の各事業所における生産設備の更新等を中心に2億63百万円の設備投資を実施し、この所要資金は自己資金でまかないました。

今後の見通し

今後の見通しにつきましては、国内外の景気に明るい兆しが見えてまいりましたものの、予断を許さない状況の中で経営の安定した成長を図るため、引続き、コスト削減を徹底すると共に、コア事業の品質とグローバル規模でのコスト競争力のさらなる強化を図るため、全社横断的な生産体制の効率化と研究開発の充実などを実施してまいります。

営業面では、既存のおお客様との取引関係ならびにサービス・販売体制をさらに強化しつつ、システム提案力を高め、受注高の増加はもとより、利益面におきましても質の高い受注獲得に努めてまいります。

今後とも、全社をあげて業績の向上に取り組んでまいり所存でありますので、株主の皆様におかれましては、一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

中間貸借対照表

(平成15年9月30日現在)

	百万円
資産	
(資産の部).....	115,601
流動資産.....	71,261
現金及び預金.....	14,222
受取手形.....	6,207
売掛金.....	20,202
棚卸資産.....	26,883
その他.....	3,757
貸倒引当金.....	12
固定資産.....	44,339
有形固定資産.....	21,594
建物.....	10,214
機械及び装置.....	2,367
土地.....	6,712
その他.....	2,300
無形固定資産.....	943
投資等.....	21,802
投資有価証券.....	4,115
子会社株式.....	11,371
その他.....	6,955
投資損失引当金.....	371
貸倒引当金.....	269
合 計	115,601

	百万円
負債及び資本	
(負債の部).....	68,749
流動負債.....	33,229
支払手形.....	1,836
買掛金.....	16,113
1年以内に返済予定の長期借入金.....	3,000
前受金.....	9,384
その他.....	2,895
固定負債.....	35,519
長期借入金.....	27,000
退職給付引当金.....	8,519
(資本の部).....	46,851
資本金.....	8,023
資本剰余金.....	5,011
資本準備金.....	2,005
その他の資本剰余金.....	3,005
利益剰余金.....	34,794
利益準備金.....	112
任意積立金.....	32,353
配当準備積立金.....	7,000
退職積立金.....	125
固定資産圧縮積立金.....	227
別途積立金.....	25,000
中間未処分利益.....	2,328
(うち中間純利益).....	(43)
評価差額金.....	69
その他有価証券評価差額金.....	69
自己株式.....	1,046
合 計	115,601

注) 1.有形固定資産の減価償却累計額

38,342 百万円

2.保証債務

1,047 百万円

3.自己株式数

単元未満株式の買取請求に伴う一時保有の自己株式
買い付けのもの

201,211 株
2,556,000 株

中間損益計算書

(平成15年4月1日から平成15年9月30日まで)

百万円

経常損益の部

営業損益の部

営業収益	45,750
売上高	45,750
営業費用	45,496
売上原価	40,154
販売費及び一般管理費	5,342

営業利益 254

営業外損益の部

営業外収益	763
営業外費用	516

経常利益 501

特別損益の部

特別利益	1,206
特別損失	1,991

税引前中間純損失 283

法人税、住民税及び事業税 400

法人税等調整額 727 327

中間純利益 43

前期繰越利益 2,285

中間未処分利益 2,328

(ご注意)この中間事業報告書は、当社第88期中間期(平成15年4月1日から平成15年9月30日まで)の営業の概況等をお知らせするものです。
なお、株主総会の招集、配当金のお支払いはございませんのでご了承下さい。

中間連結貸借対照表

(平成15年9月30日現在)

百万円	百万円
資産	負債・少数株主持分及び資本
(資産の部).....130,046	(負債の部).....82,285
流動資産.....91,249	流動負債.....42,198
現金及び預金.....20,208	支払手形及び買掛金.....21,353
受取手形及び売掛金.....34,377	短期借入金.....4,051
棚卸資産.....31,086	未払法人税等.....871
繰延税金資産.....996	繰延税金負債.....42
その他.....4,863	その他.....15,880
貸倒引当金.....283	
固定資産.....38,797	固定負債.....40,087
有形固定資産.....24,229	長期借入金.....31,307
建物及び構築物.....13,066	退職給付引当金.....8,752
機械装置及び運搬具.....2,662	その他.....27
工具器具備品.....995	
土地.....7,396	(少数株主持分).....331
建設仮勘定.....73	少数株主持分.....331
その他.....34	
無形固定資産.....1,636	(資本の部).....47,428
投資等.....12,931	資本金.....8,023
投資有価証券.....4,668	資本剰余金.....5,011
長期貸付金.....688	利益剰余金.....35,144
繰延税金資産.....4,867	その他有価証券評価差額金130
その他.....3,172	為替換算調整勘定165
貸倒引当金.....466	自己株式1,046
合計.....130,046	合計.....130,046

連結貸借対照表のポイント

- 有利子負債は、前年同期に比べ76億円削減することができました。
- 固定資産は、滋賀事業所の生産設備の更新を中心に、約5億円の設備投資を行ないました。

連結損益計算書のポイント(次頁)

- 営業利益は、世界最適地生産及び海外調達比率の向上による変動費削減や前期から継続実施しております固定費削減に加え、アジア各国現地法人の収益が大幅に好転した結果、前年同期に比べ大幅に収益改善を図ることができました。
- 特別利益は、持ち合いの一部解消による株式売却益等を計上、特別損失は、田端(東京都北区)の寮・社用地の土地を売却したことにより発生した土地売却損や棚卸資産の除却損等を計上いたしました。

中間連結損益計算書

(平成15年4月1日から平成15年9月30日まで)

		百万円
経常損益の部		
営業損益の部		
営業収益	61,583	61,583
売上高	61,583	
営業費用	60,324	60,324
売上原価	51,065	
販売費及び一般管理費	9,259	
営業利益	1,258	1,258
営業外損益の部		
営業外収益	200	200
受取利息及び配当金	55	
その他	145	
営業外費用	650	650
支払利息	434	
その他	216	
経常利益	809	809
特別損益の部		
特別利益	1,197	1,197
投資有価証券売却益	1,071	
固定資産売却益	125	
その他	0	
特別損失	2,145	2,145
棚卸資産処分損	1,075	
固定資産除却損	563	
退職給付引当金繰入額	291	
役員退職慰労金	206	
その他	8	
税金等調整前中間純損失	139	139
法人税、住民税及び事業税	718	
法人税等調整額	769	51
少数株主利益	59	59
中間純損失	148	148

中間連結剰余金計算書

(平成15年4月1日から平成15年9月30日まで)

		百万円
中間連結剰余金計算書		
(資本剰余金の部)		
資本剰余金期首残高	5,011	5,011
資本剰余金中間期末残高	5,011	5,011
(利益剰余金の部)		
利益剰余金期首残高	36,433	36,433
利益剰余金減少高	1,288	1,288
配当金	1,132	
役員賞与	6	
連結子会社増加に伴う利益剰余金減少高	1	
中間純損失	148	
利益剰余金中間期末残高	35,144	35,144

中間連結キャッシュ・フロー計算書

(平成15年4月1日から平成15年9月30日まで)

		百万円
中間連結キャッシュ・フロー計算書		
営業活動によるキャッシュ・フロー	4,324	4,324
投資活動によるキャッシュ・フロー	2,831	2,831
財務活動によるキャッシュ・フロー	5,291	5,291
現金及び現金同等物に係る換算差額	162	162
現金及び現金同等物の増加額	1,702	1,702
現金及び現金同等物期首残高	18,271	18,271
連結範囲の変更による現金及び現金同等物の増加	138	138
現金及び現金同等物中間期末残高	20,112	20,112

連結キャッシュ・フロー計算書のポイント

1. 中間期末における現金及び現金同等物の残高は、前年同期に比べ43億円増加し、201億円となりました。
2. 営業活動によるキャッシュ・フローは、売上債権の回収ならびに取引条件の改善により、収入超過となり、また、投資活動によるキャッシュ・フローも投資有価証券の売却により収入超過となりました。財務活動によるキャッシュ・フローは有利子負債の返済等により支出超過となりました。

トピックス

海外ニュース

ABB社とパートナーシップ提携

6月、Daifuku Europe Ltd. が世界最大級の重電・オートメーション企業、ABB社(本社:スイス・チューリッヒ)の現地子会社ABB A/S社とパートナーシップ契約を提携。欧州での認知度向上、ビジネスチャンスの拡大、現地有力メーカーに対する競争力アップに役立てます。

「大福自動輸送機(天津)」開業式、受注も本稼働

9月、中国での自動車市場開拓のため設立された大福自動輸送機(天津)の開業式を開催。中国自動車業界VIPをお招きしてお披露目したもので、全国紙や地元紙、テレビでも多数取り上げられました。

韓国で洗車機販売会社設立

6月、韓国での洗車機販売の現地法人「大福洗車機韓国」(本社:ソウル、資本金3億ウォン/約3,000万円)を設立、韓国市場における洗車機更新需要期の対応ならびに、アフターサービス体制の構築を行うこととしました。

スペイン・バルセロナで開催された物流展「Salon International de la logistica」に、販売提携先の現地企業ULMA社が出展(6月)



Daifuku EuropeとABB A/S社の契約調印式



大福自動輸送機(天津)の開業式

国内ニュース

ダイフクテクノサービス合併、製造・工事を一貫体制に

7月、メンテナンスサービス担当の株式会社ダイフクテクノサービスを吸収合併(DTS事業部)。製造から据付工事、メンテナンスサービスまで一貫した質の高いサービス体制を構築しました。

情報システム格付け、インフラ充実で最上位に

4月、日経産業新聞などの「企業の情報システム調査」で、最上位の「AAA」を獲得。1996年度からのパソコン配備や、海外を含めたネットワーク導入などの情報インフラ整備が格付けに反映されました。

マテリアルハンドリングシステムの総合展示場「日に新たな館」、開館10周年を迎え、来館者は17万人に(6月)

立体駐輪場「サイクルハウス21」、一号機を西武鉄道大泉学園駅(東京都練馬区)前の駐輪施設に納入(4月)

ダイフクユニックス、新型洗車機「ニュープロス」を発売(9月)

ダイフクキューピカ、ボウリング関連商品「バギーボウル」、「ハイウェイ66」を展示会に出展、来年から本格発売へ

日本経済新聞社が発表した第30回日経産業新聞広告賞で「産業機器部門優秀賞」を受賞(10月)



開館10周年を迎えた「日に新たな館」では自動仕分け装置を一新



分割ブラシなど業界初の機能満載の門型洗車機「ニュープロス」

製品のご案内



ケース自動倉庫「ファインストッカー」/ 医療用ウェア業界



ボディ自動昇降装置「ドロップリフト」/ 自動車業界



全方向移動型無人搬送車「マジックビークル」/ 電機業界



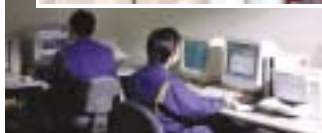
重量級移動棚「移動ラック」/ 塗料業界



「オートパレタイシングシステム」/ 医薬品業界



クリーンルーム用搬送システム「クリーンスペースキャリア」/ 液晶業界



物流センター管理システム「ウェアナビ」/ ギフト用品業界



自動仕分け装置「ジェットサーフィンソーター」/ 3PL業界

会社概要

社名 日新

創 立 昭和12年5月20日
資 本 金 8 023 016 656円
(平成15年9月30日現在)

発行する株式総数 2億株
発行済み株式総数 113 670 721株
(平成15年9月30日現在)

役員(平成15年9月30日現在)

代表取締役会長	小 泉 純 一
代表取締役社長	竹 内 克 己
常務取締役	漆 崎 榮 二
常務取締役	天 草 晴 吉
常務取締役	小 林 史 男
常務取締役	平 井 豊 文
取締役	葛 城 日 清
取締役	柿 沼 成 良
取締役	藤 田 中 好
取締役	早 坂 正 弘
取締役	河 野 勝 孝
取締役	谷 口 孝 正
取締役	井 上 義 良
取締役	吉 永 正 樹
取締役	北 條 正 樹
監査役(常勤)	関 戸 治 厚
監査役(常勤)	中 谷 保 昌
監査役(常勤)	今 井 夫 雄
監 査 役	阿 達 哲 雄
監 査 役	弓 削 純 一

(注)監査役のうち、関戸治氏、阿達哲雄氏および弓削純一氏は商法特例法第18条第1項に定める社外監査役であります。

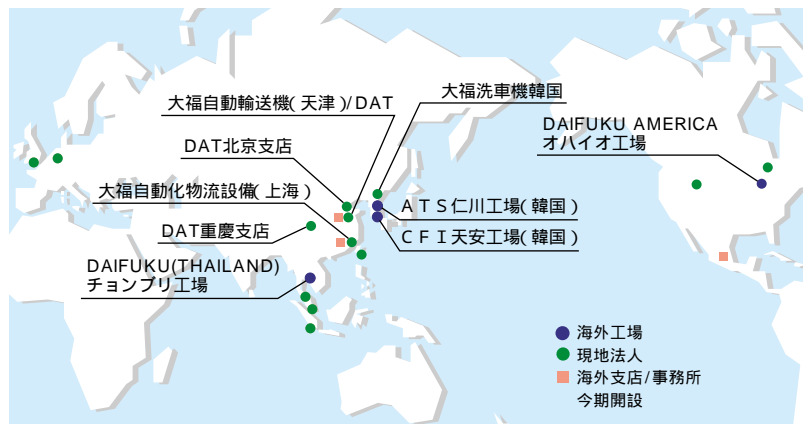
経営理念

1. 広く国内外に、最適・最良のマテリアルハンドリングシステム・機器類を提供し、産業界の発展に貢献します。
2. 収益性を重視した、健全で成長性豊かな経営を目指します。
3. 上下・左右に情報が飛び交う、自由闊達な明るい企業風土をつくります。

主な事業所

本 社 〒555-0012 大阪市西淀川区御幣島 3-2-11 TEL(06)6472-1261(代)
東京本社 〒105-0014 東京都港区芝 2-14-5 TEL(03)6456-2231(代)
事業所 小牧 〒485-8653 小牧市小牧原新田1500 TEL(0568)74-1500(代)
滋賀 〒529-1692 滋賀県蒲生郡日野町中在寺1225 TEL(0748)763-0321(代)
支 店 北海道 東北 高崎 北関東 東京 横浜 名古屋 静岡
東海 北陸 大阪 中国 九州

主な海外拠点と世界最適地生産体制



株 式 メ モ

決 算 期 日 3月31日

定時株主総会 6月中

基 準 日 毎年3月31日

公 告 掲 載 新 聞 日本経済新聞

上場証券取引所 大阪第1部、東京第1部、
名古屋第1部

名義書換代理人 大阪市中央区北浜四丁目5番33号
住友信託銀行株式会社

同事務取扱場所 大阪市中央区北浜四丁目5番33号
住友信託銀行株式会社
証券代行部

(郵便物送付先) 〒183-8701
東京都府中市日鋼町1番10
住友信託銀行株式会社
証券代行部

(電話照会先) 住所変更等用紙のご請求
☎(0120)175-417

その他のご照会
☎(0120)176-417

(インターネットホームページURL)
[http://www.sumitomotrust.co.jp/
STA/retail/service/daiko/index.html](http://www.sumitomotrust.co.jp/STA/retail/service/daiko/index.html)

同 取 次 所 住友信託銀行株式会社
全国各支店

決算公告については、株式会社ダイフクのホームページ
(<http://www.daifuku.co.jp/>)に掲載しております。

株式会社ダイフク

本社:〒555-0012 大阪市西淀川区御幣島3-2-11 TEL (06)6472-1261(代)
東京本社:〒105-0014 東京都港区芝2-14-5 TEL (03)3456-2231(代)

<http://www.daifuku.co.jp/>